

# 進路決定率98.2%

## 総合建設業への就職3割

東北工業大学建築学部(石井敏学部長)は、2021年度の同学部(前工学部建築学科生)卒業生の進路状況(4月時点)をまとめた。卒業生125人のうち進路が決定したのは123人(98.2%)だった。このうち、就職は12人(89.6%)で、建設業(総合工事業)への就職が全体の3割を占めた。一方、進学は全体の8.9%に当たる11人(8.9%)だった。

就職先を業種別に見ると、最も多い建設業(総合工事業)が34社41人(33.3%)で、職種はおおむね「施工管理」となる。次いで、住宅産業が18社28人(22.8%)、建設業(設備工事業)が8社11人(8.9%)、建築設計事務所・コンサルタントが11社11人(8.9%)、建設業(職別工事業)が5社6人(4.9%)、製造業が4社4人(3.3%)、サービス業(その他)が4社4人(3.3%)だった。公務員は3自

治体4人(3.3%)、NPOが1団体2人(1.6%)、卸売業・小売業が1社1人(0.8%)。

宮城県が12人(10.7%)、宮城以外の東北各県は15人(13.4%)、その他は11人(9.8%)となっている。

同学部就職担当の大石洋之准教授によると、22年度卒業予定者の就職活動状況は「4月

末時点で内々定者が4割を超え、他学科(業種)に比べて高い。実質的には3年夏・冬のインターシップ参加という形で採用活動が進んでおり、建設業では特に早期化の傾向にある」と指摘する。

これまでも建築分野の特定職種で早期化していたが、人材不足の影響により、建設業界全体で採用活動の前倒しがさうに進むと見ている。このため、「志望先によって3・4月に進路が決まる学生がいる一方、昨年度だと夏や秋まで就職活動を継続している学生もいた。就職活動を長期間する学生に対しては、企業側から継続的な採用情報が提供されれば、学生につながることも可能だ」と語っている。

